RUEHAUF
日本フルハーフ

会社案内

Toward the Next Stage

NIPPON FRUEHAUF COMPANY GUIDE

進化する物流のニーズに応える
総合輸送機器メーカー

ごあいさつ

1963年（昭和38年）創立以来、私ども日本フルハーフは輸送用機器分野において一貫してお客様のご満足を大切にし、先進の技術で果敢に挑戦し続けてまいりました。

近年、輸送分野においては、安全輸送、環境対応、輸送品質、輸送効率など多くの課題がございます。

今後もさらに、現場現物を中心にして事実を正しく捉え、これらの課題解決に取り組み、環境と社会に広く貢献する企業を目指してまいります。今後とも、皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。

代表取締役社長　田中俊和

企業理念

❶ 高い良識を持ち、地球環境との調和と誠実な企業活動を通じて社会に貢献すると共に、社会から信頼される良き企業市民を目指す。

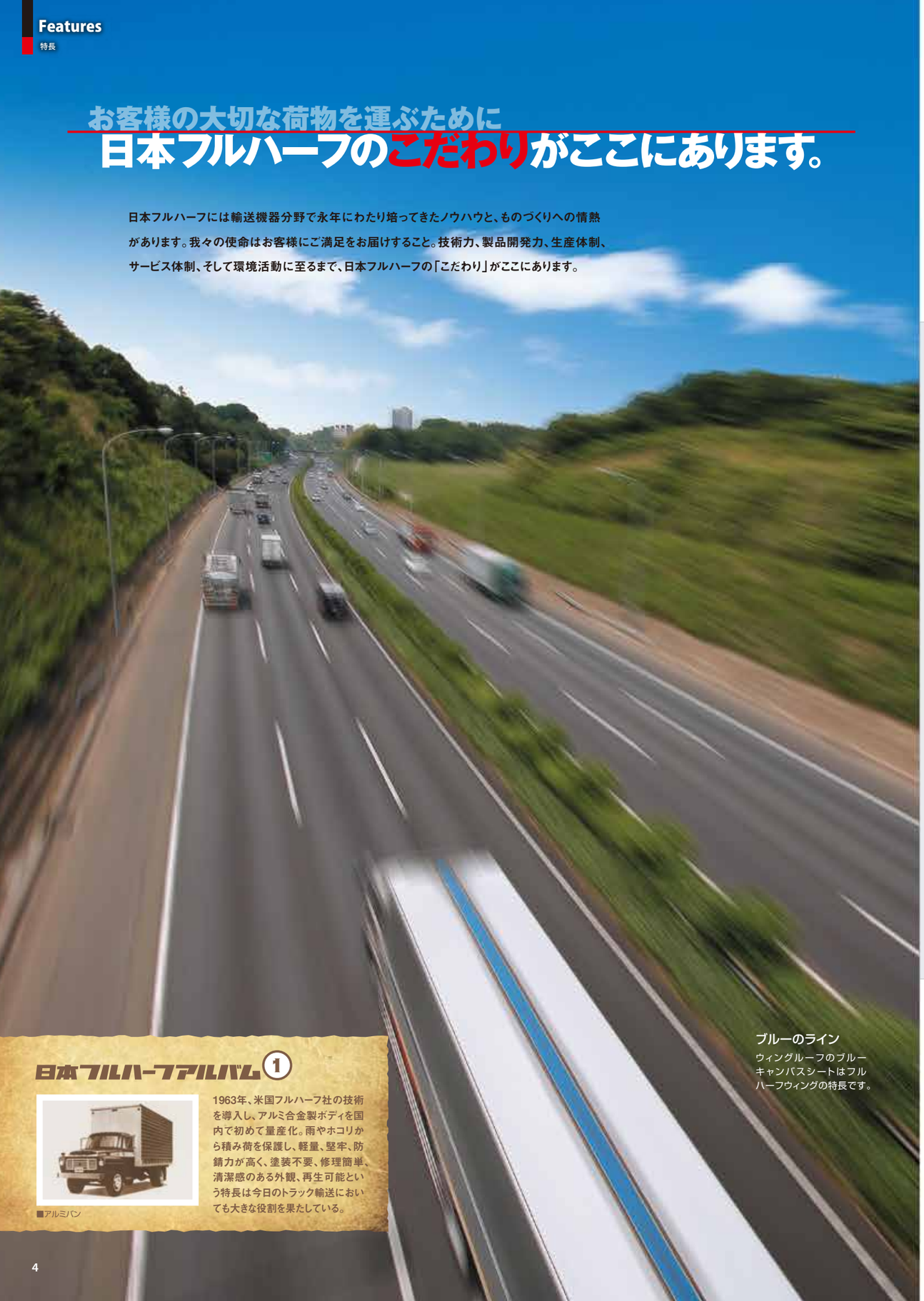
❷ 特長ある輸送機器メーカーとして、有用な機能商品やサービスを提供し、変化するお客様の課題解決に貢献する。

❸ 従業員個人の創造力とチームワークを最大限に高め、達成感と満足に繋がる自由闊達でチャレンジ精神あふれた企業風土をつくる。

❹ 進化する高効率経営で、経営環境変化への対応力を高め、長期安定的な成長と企業価値向上を持続する。

お客様の大切な荷物を運ぶために
日本フルハーフのこだわりがここにあります。

日本フルハーフには輸送機器分野で永年にわたり培ってきたノウハウと、ものづくりへの情熱があります。我々の使命はお客様にご満足をお届けすること。技術力、製品開発力、生産体制、サービス体制、そして環境活動に至るまで、日本フルハーフの「こだわり」がここにあります。



ブルーのライン
ウィングルーフのブルーキャンバスシートはフルハーフウィングの特長です。

日本フルハーフアルバム①

■アルミバン

1963年、米国フルハーフ社の技術を導入し、アルミ合金製ボディを国内で初めて量産化。雨やホコリから積み荷を保護し、軽量、堅牢、防錆力が高く、塗装不要、修理簡単、清潔感のある外観、再生可能という特長は今日のトラック輸送においても大きな役割を果たしている。

FRUEHAUFの使命

技術

高品質を支える確かな技術

輸送機器に要求される技術力。当社はアルミ総合メーカー、日本軽金属HDグループの一員としてアルミ素材やアルミ加工の技術を基礎とし、製品開発、生産に至るまで、豊富な経験と確かな技術で高品質な商品をご提供しています。

製品

無限の可能性を持つ製品ラインアップ

積み荷の性質や荷役方法、積載量など、お客様の物流のニーズに応える最適な一台をお選びいただける様、トレーラから大・中・小型トラックまで、ドライバン、温度管理車、ウィングルーフ、荷役省力化機器等、充実した製品ラインアップを取り揃えております。

生産

高品質を生み出す生産体制

多様な製品は、厚木工場をはじめとする品質マネジメントシステムISO9001の認証を取得した全国5箇所の生産拠点で生産されています。品質と効率を追求した生産体制と、ものづくりへの情熱が、お客様に信頼される製品を生み出しています。

RUEHAUF 日本フルハーフ

環境

環境に配慮した事業活動

地球環境に優しい技術を常に追求し、環境マネジメントシステムISO14001の認証を厚木工場をはじめとする全国5箇所の生産拠点で取得し、環境保護に取り組んでいます。また、本店・厚木工場は「ばらの咲く工場」として地域住民の皆様にも親しまれています。

全国サービスネットワーク

全国に展開するサービス網

国内各地に7つの直営工場と約220箇所以上に及ぶ提携サービス工場を展開。強力なサービスネットワークを構築し、物流の現場で活躍するお客様の生の声を反映するとともに、安心してアフターサービスが受けられる体制を整えています。

製品ラインアップ

当社の製品ラインアップが日本のトラック輸送形態を表していると言えるほど、その時代時代のニーズにお応えしながら、製品を開発してまいりました。お客様に確かにその製品価値を認められ、品質にご満足いただき、輸送の現場で活躍している当社製品の一部をご紹介いたします。

ドライバン

Dry Van

アルミコルゲートパネルやカラーアルミパネルを使い、濡れては困るもの、ホコリを嫌うもの、より高価なものなど、様々な積み荷に応じて豊富なラインアップを揃えたバントラックです。

■大型バン

■中型バン(テールゲートリフター付)

ウィングルーフ

Wing Roof

物流シーンで迅速かつ高効率荷役を実現するウィングルーフは半世紀以上の経験、実績を基に大型車、中型車、小型車、温度管理車、トレーラ、コンテナまでラインアップ。
大型車はスロースタート&ストップ機構を標準装備。さらにハイリフト機構を装備したスーパーリフト80などバリエーションも多彩です。

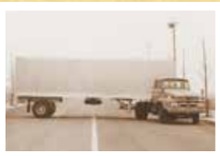
■中型ウィングルーフ

■大型ウィングルーフ

■スーパーリフト80

■小型ウィングルーフ

日本フルハーフアルバム②


■バントレーラ

1965年、日本フルハーフ製トレーラ第1号完成。道路網の整備と共に、大量高速輸送時代の到来を告げる。

省力機器

Equipment

荷役のさらなる合理化・省力化にボディメーカーの目でお応えいたします。

フルゲートリフターシリーズ

■フルゲートマスターⅢ(起立収納式)

■フルゲートフォルダー(床下格納式)

温度管理車

Temperature-Controlled Van

トレーラから大・中・小型トラックまでフルラインアップでコールドチェーンをサポート。ノンクロムカラーアルミパネルで環境にも優しい、「鮮度」を確かに守る日本フルハーフの温度管理車。

■大型冷凍ウィング

■中型冷蔵ウィング

■ザ・冷凍車(大型コルゲートパネル冷凍車)

■大型サンドイッチパネル温度管理車

■中型サンドイッチパネル温度管理車

■小型サンドイッチパネル温度管理車

トレーラ

Trailer

ドライバン、ウィング、冷凍バン、コンテナシャシ、プラットフォームトレーラ、リフトアクスル、スーパーリフト80、フルトレーラなど豊富なバリエーションで大量・高速輸送時代をパワフルにリードしています。

■ウィングトレーラ

■フルトレーラ

■冷凍バントレーラ

コンテナ

Container

貨物輸送のシステム化に貢献し、物流新時代のコンテナリゼーションを拓きます。

■JR31ftウィングコンテナ

■40ft冷凍コンテナ

■ウィングコンテナ

受注から完成まで
お客様の期待に応えるために

「積み荷を運ぶ」というニーズが形になり、やがて一台のトラックとなって街を走るまでには、様々な工程をクリアしなければなりません。お客様が安全・安心にご使用いただける様、あらゆる工程で確認を繰り返し、信頼・ご満足頂ける一台をお届けしてまいります。

受注

お客様のご要望を確認

「何をどのように運ぶ?」この問いかけから製品づくりが始まります。多種多様な製品を世に送り出してきたノウハウを活かし、お客様とともにご満足いただける製品をつくり上げていきます。

開発・設計

“オンリーワン”のものづくり

新しい機能やより高度な性能を追求してチャレンジする開発技術者がいます。また、多様なボディ・バリエーションと豊富なオプションの組み合わせから最適な一台を考え抜く設計技術者がいます。こうしてお客様の物流スタイルに合わせたオンリーワンの輸送機器が生まれます。

生産

製品に反映される匠の技

生産活動において品質を支えているのは、一つひとつの部品の精度や作業者の技量など地道な作業の積み重ねです。機械加工、溶接、塗装、組み立てなど、全ての生産工程にわたって日本フルハーフのものづくりへの情熱と技が活かされています。

性能試験

輸送機器に要求される性能を追求

強度、耐久性、温度保持性能、走行性能など、輸送機器に求められる性能は時代とともに高まっています。お客様の声に応えるべく、あらゆる角度から性能試験を繰り返し、安全性と品質を検証。お客様に信頼される製品をご提供いたします。

検査

信頼される品質のために

完成・納車までには、仕様の確認、重量・寸法・転角の測定検査、シャワーテストなど、幾重もの検査を行ないます。生産工程においてもライン内外で検査を実施しており、お客様に信頼される品質を守るために全力を傾けています。

完成

そして製品の完成、納車

たくさんの工程を経ていよいよ完成となります。受注の段階からイメージしてきた一台が、今、目の前に…。

日本フルハーフアルバム③

■冷凍車

1965年、コールドチェーン時代の到来に先駆けて完成。バントレーラと共に技術力の高さを国内に示した。

全国を網羅する 充実のサービス体制

当社製品がお客様にとって真に頼れる存在である様に、全国各地に直営サービス工場と提携サービス工場を展開し、サービス体制を築いています。各地のサービス担当者がお客様と工場を結び、部品の供給はパーツセンターが本部となり、迅速かつ確実なサポート体制を敷いています。また、各サービス拠点における研修、教育支援など、常にサービスの質の維持向上に努めております。

日頃のメンテナンス、万一の故障や事故の場合には、全国ネットのサービス網を活かした修理・サービスや修理部品の供給体制がお客様のお役に立ちます。

■活躍するウィングルーフ

■ お問い合わせ対応

お客様からのご相談や修理についてのお問い合わせは各営業拠点にて、部品のお問い合わせについてはパーツセンターにて迅速に対応いたします。

■ メンテナンスサービス

定期的にお客様を訪問して使用車両の点検整備を行う、有料のシステムです。稼働率の向上と整備コストの削減につながります。また、ご契約車両は集中管理を行い、的確なデータに基づくメンテナンスを実現しています。

■ 迅速な部品出荷

厚木工場の近隣地に厚木パーツセンターを設置。また、北海道と九州に部品デポを設置。工場と連携し、修理部品の迅速な全国配送を行っております。

■ 研修会・講習会

サービス担当者を対象に研修会や講習会を定期的に実施。製品の取り扱いや修理方法に関する教育を行っています。

全国展開のサービス拠点

全国5箇所の生産拠点、7箇所の直営修理工場、約220箇所以上の提携サービス工場がお客様をサポートいたします。

生産拠点・販売拠点・サービス拠点

■ 生産拠点
● 販売拠点
★ サービス拠点

■フルハーフ北海道株式会社
★部品デポ北海道
●北海道支店

■★フルハーフ滋賀株式会社
●名古屋支店
●北陸営業所
●阪神支店

■★フルハーフ岡山株式会社
●岡山営業所
●広島支店
●九州支店
●四国支店
●静岡営業所
●新潟支店
★フルハーフサービス株式会社岩手工場
●盛岡営業所
●仙台支店
★フルハーフサービス株式会社茨城工場
●石岡支店
●北関東支店
●東京支店
●千葉営業所
東京オフィス
品川オフィス
●営業統括部
●営業企画部
●トレーラ営業部
●直納営業部
●広域営業部
●多摩支店
●神奈川支店
★フルハーフサービス株式会社厚木工場
サービス部
部品部パーツセンター
サービス事業企画部

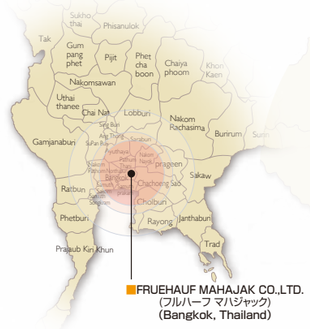
■フルハーフ九州株式会社
★部品デポ九州

■日本フルハーフ株式会社 厚木本社工場

海外拠点

タイ

安全、軽量、高効率、省エネ、高リサイクル性の車体を開発しタイ王国における、安全・安心輸送に貢献します。



■FRUEHAUF MAHAJAK CO.,LTD.
(フルハーフ マハジャック)
(Bangkok, Thailand)

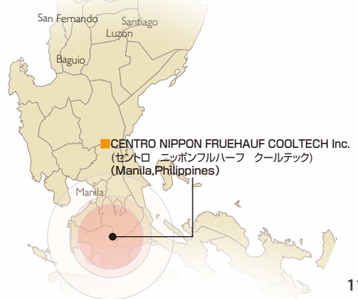
中国

日本で培われたアルミ車体の軽量化、積荷を守る技術で、中国における物流輸送の品質向上、高効率化を提案する製品を提供します。

■山東丛林福禄好富汽車有限公司
(山東ツォンリンフルハーフ自動車)
(山東省龍口市)

フィリピン

日本国内で培った温度管理車製造に関する技術・ノウハウを提供し、現地ニーズに合致した車体を製造販売し、同国のコールドチェーンの発展に貢献します。



■CENTRO NIPPON FRUEHAUF COOLTECH Inc.
(セントロ ニッポンフルハーフ クールテック)
(Manila,Philippines)

厚木本社工場

神奈川県内陸工業団地内

会社概要

商号	日本フルハーフ株式会社 NIPPON FRUEHAUF COMPANY, LTD.
設立	1963年(昭和38年)10月19日
資本金	10億250万円
株主	

名義	所有株数(株)	所有率(%)
日本軽金属ホールディングス(株)	1,323,300	66
いすゞ自動車(株)	681,700	34

厚木本社工場	〒243-0281 神奈川県厚木市上依知上ノ原3034 TEL.046-285-3111(代表) FAX.046-286-8800
事業内容	1. 被牽引車、各種自動車用車体、各種コンテナ及び関連製品の製造・販売・修理・整備 2. 前号各製品の賃貸及び古物売買
製造・販売品目	各種バンボディ、各種トレーラ、各種コンテナ等の製造・販売
取引金融機関	みずほ銀行 三菱UFJ銀行 三井住友信託銀行 三井住友銀行 他

日本フルハーフアルバム④

■ウィングルーフ

1969年、省力化輸送のエースとして登場。側方荷役車体は国内輸送業界において効率輸送の活性役となり、まさに革命をもたらした。

会社沿革

1963年(昭和38年)	10月	日本軽金属株式会社といすゞ自動車株式会社の折半出資により米国フルハーフ社の技術を導入し、設立。 本社を東京都中央区銀座7丁目3番5号に置く。
1964年(昭和39年)	9月	神奈川県厚木市に厚木工場を完成、以後本格的な操業を開始。
1966年(昭和41年)	8月	増資に際し、技術提携先の米国フルハーフ社との提携の緊密化及び営業の拡充を図るため同社の資本参加を得る。
1967年(昭和42年)	9月	海上コンテナ製造設備を完成。
1973年(昭和48年)	9月	バン型トラックボディキット製造設備を完成。
1976年(昭和51年)	12月	地域需要の特性に対応したバンボディの架装・販売及びサービス活動を行うため「東部フルハーフ株式会社」ならびに「西部フルハーフ株式会社」を設立。
1977年(昭和52年)	5月	同「岩手フルハーフ株式会社」を設立。
1979年(昭和54年)	1月	航空コンテナの製造販売開始。
1982年(昭和57年)	6月	本店を神奈川県厚木市に移転。
1983年(昭和58年)	6月	各種産業機器、装置収納用シェルター「プラントパッケージ」の製造販売業務を東海フルハーフ株式会社に移管。
1986年(昭和61年)	10月	産業構造の変化、商品の多様化に伴う輸配送システムの新展開に対応するために、東部フルハーフ株式会社及び西部フルハーフ株式会社販売部門を統合し、「日本フルハーフ販売株式会社」を設立。
1988年(昭和63年)	7月	地域需要特性に対応するため、トレーラの組立架装・修理を目的とする「北海道フルハーフ株式会社」を設立。
1990年(平成 2年)	2月	西日本市場への生産・供給拠点として岡山に岡山工場を設置し、製造・修理を請負う「岡山フルハーフ車体株式会社」を設立。
	6月	海上コンテナの修理・サービス部門を分離独立し、「フルハーフ・コンテナ・サービス株式会社」を設立。
	10月	九州地方への生産・供給拠点として佐賀に九州工場を設置し、製造・修理を請負う「九州フルハーフ車体株式会社」を設立。
1996年(平成 8年)	4月	きめ細やかなサービス対応を図るため、「フルハーフ・サービス厚木株式会社」を設立。
	6月	日本軽金属株式会社がフルハーフ・インターナショナル・リミテッド社保有の全株式を取得。
1999年(平成11年)	2月	本店、厚木工場「ISO9001」認証を取得。
	4月	生販の一元化を図ることにより、市場変動に迅速に対応するため「日本フルハーフ販売株式会社」を吸収合併。本店を神奈川県横浜市に移転。
2000年(平成12年)	5月	本店を神奈川県厚木市に移転。
2001年(平成13年)	9月	株式会社アイ・ビー・テックと合併。
2002年(平成14年)	11月	本店、厚木工場「ISO14001」認証を取得。
2004年(平成16年)	4月	フルハーフ九州株式会社生産設備を拡充。
2008年(平成20年)	7月	フルハーフ茨城株式会社を吸収合併。
2009年(平成21年)	7月	フルハーフ・コンテナ・サービス株式会社を吸収合併。
2011年(平成23年)	10月	中国におけるトレーラの製造販売を目的として、丛林集団有限公司、日本軽金属ホールディングス株式会社、伊藤忠メタルズ株式会社、伊藤忠集団有限公司と合弁で山東丛林福禄好富汽車有限公司(山東省龍口市)を設立。
2013年(平成25年)	5月	フルハーフ九州株式会社が「ISO14001」の認証を取得し、全ての生産拠点が認証を取得。
2014年(平成26年)	7月	タイにおけるトラック架装事業の推進を目的として、地場財閥企業グループ・マハジャックグループ内の架装メーカーに70%出資し、「フルハーフマハジャック」(バンコク都ノンチョク)を設立。
2017年(平成29年)	1月	厚木工場に電着塗装工場を建設、稼動開始。
2018年(平成30年)	12月	厚木工場の生産性向上を目的としたライン再構築工事完了。
2019年(平成31年)	7月	フィリピンにおける温度管理車製造販売を目的として、現地、大手車両架装メーカーCentro Manufacturing Corporation(マニラ)、当社グループ企業フルハーフマハジャック(タイ・バンコク)との合弁でセントロニッポンフルハーフクールテック (CENTRO NIPPON FRUEHAUF COOLTECH Inc.)を設立

今もなお脈々と受け継がれる

フルハーフのフロンティア・スピリット

ドイツ移民者の息子オーガスト・C・フルハーフは14歳のとき、故郷のミシガンから“幸運”を探しに町にやってきました。その後、デトロイトで馬蹄や馬車をつくる鍛冶屋として工場を立ち上げるまでになりましたが、時代は馬から自動車への転換期。ある材木商から「湖までボートを運びたい」という相談を持ちかけられたことが彼の運命を変えました。苦心の末、材木商のT型フォードで牽引する「セミ・トレーラ」をつくり上げました。1914年の出来事です。
これが、その後アメリカの貨物輸送の担い手となるトレーラ輸送の原型となり、さらにオーガストの息子ロイ・フルハーフはコンテナとトレーラの技術的課題を解決してコンテナ輸送の基礎を確立しました。すなわち、フルハーフ父子2代にわたって近代物流の基盤を築くという快挙を成し遂げたのです。
日本フルハーフは、この米国フルハーフ社の技術を導入し、日本の物流業界に先進の輸送用機器を提供してまいりました。

T型フォードと第1号トレーラ
(1914年)

米国フルハーフ創業当初の職人たち (左端がオーガスト・フルハーフ)

日本フルハーフアルバム⑤

■海上コンテナ

1967年、海上コンテナの生産開始。1979年ドライ、冷凍合わせて世界シェア1位になる。酷使されるコンテナのノウハウが今も製品づくりに生かされている。

メーカーとして地球環境にできること

近年ますます関心が高まっている環境問題。当社では、環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得しています。生産活動全般に含まれる環境負荷を総合的に抽出、検討し、環境負荷低減のための取り組みを様々な形で行っています。製品のリサイクルはもちろん、環境負荷物質を含む部品の削減、生産工程の省資源、省エネルギー化、廃棄物の処理などを徹底的に見直し、環境保全に努めています。

日本フルハーフアルバム⑥

■フルゲートリフター

1983年、キャスター付台車の荷役に革命をもたらした。ボディメーカーの技術とアルミ加工技術の永年の積み重ねが、プロが選ぶ定番商品として愛用されてきた。

環境方針

日本フルハーフは、地球環境に優しい技術を常に追求すると共に、環境保全を十分に意識したトレーラ、バン型ボディ等の生産活動を通じて、環境保護に率先して取り組み、豊かな社会の実現、維持に貢献します。

1 環境に優しい製品の提供

生産活動、ならびに製品の提供においては、その環境課題に積極的に、且つ継続的改善をもって取り組むと共に、環境負荷の低減をめざし汚染の予防に取り組みます。

2 環境保全の推進

全ての事業活動において、法規制の順守はもとより、社会の要求事項にも積極的に応え、環境保全活動に取り組みます。

3 環境を配慮した事業活動の実現

全ての事業活動において、省エネルギー、省資源、グリーン調達、リサイクルに取り組み、さらには、これらを見直すことにより、かぎりある地球資源の保護に取り組みます。

4 より良い環境活動の実現

日本フルハーフ、及び関連会社全従業員が、地球環境保護の大切さを認識・自覚するよう、啓蒙活動に取り組みます。また、社会との調和・共栄をめざし、事業活動以外での環境活動にも取り組みます。

5 環境方針の公開

本環境方針は、社外の要求、その他の必要に応じて一般に公開します。

製品への取り組み

製品における温暖化対策や化学物質の環境への影響を低減する取り組みを行っています。

■ 温暖化対策

自然林から伐採される樹木の使用率を下げるため、床材やドア材を代替材に切り替える検討を進めています。

■ オゾン層破壊対策

温度管理車の断熱材に含まれるフロンは、2005年3月までに代替原料の発泡剤への切り替えを完了しました。

■ 環境配慮対策

鉛・水銀・六価クロム・カドミウムなど、環境負荷物質と呼ばれる4物質の製品への使用削減について、自主目標を設定し、目標を達成しました。

日本フルハーフ株式会社イメージフラワー「 聖火(Olympic Torch)」
1972年国際コンクール金賞受賞の日本作出のばら。
多くの人々によって継ぎ運ばれる「聖火」は当社が生産しております貨物を大切に運ぶ輸送機器のイメージと重なり、イメージフラワーとしております。

日本フルハーフのばら

日本フルハーフの厚木工場は「ばらの咲く工場」としても親しまれています。発端は1983年(昭和58年)、「味気ない工場に潤いを…」と有志が集ってばらの苗木を植えたのが始まり。今では約400種類、1000本までに増え、県内でも有数のばら園との評判もいただいています。きれいに咲いたばらを見ていただこうと、従業員手づくりの「ばら観賞会」を開催して、近隣住民の方との触れ合いや、ばらを通じた環境活動を行っています。この日ばかりは工場の音も消えて、ばらと親しむゆったりとした時間が流れます。